

様式 02-2

品質保証書—組成表（維持管理該当の場合）

維持管理対象の例として他の記入例と登録塗料分類を変更しています

会社名：日本塗料株式会社

登録塗料分類：EP：エポキシ樹脂系塗料

商品名：ニホン壁タロウシーラー

構成材料^{注7}：1液・多液（

種類）

色相：単色・各色

各艶：有・無

用途：壁 床 天井 その他（

天井

その他（

）

（構成材料名^{注7}：種類^{注7}：有・無）

成分名 ^{注7}	重量% ^{注1} (小数点以下1桁まで記入)	C A S N o .	備考 ^{注3}
樹脂（固形分）			
エポキシ変性アルキド樹脂	28.0	非開示	維持管理該当
顔料			
ルチル型チタン白	14.0	13463-67-7	
硫酸バリウム	22.0	7727-43-7	
溶剤			
ミネラルスピリット	23.0	8052-41-3	
ジイソブチルケトン	10.0	108-83-8	
低沸点芳香族ナフサ	2.8	64742-95-6	
添加剤 ^{注2}			
シリコン変性消泡剤	0.2		非ホルムアルデヒド系
その他			
合計	100.0		
〔塗料特性〕 ^{注6、8} 密度：1.33 g / m l (23℃) 加熱残分：63.5% 引火点：41℃以上 混合比率 ^{注8} ：混合比率の変動 ^{注8} ：有・無			

注1：各色・各艶の場合は重量%を巾で記入する。単色等の場合は固定値で記入する。

注2：各色・各艶の添加剤種類はすべて記入する。

注3：樹脂はアルキド樹脂（アルキド樹脂を変性した樹脂を含む）、天然系樹脂の場合は維持管理該当、それ以外は維持管理非該当を備考欄に記入する。添加剤は非ホルムアルデヒド系であることを備考欄に記入する。

注4：作成者サイン A は申請会社作成者が記入する。（自社製造品又は製造委託品は B 記入不要）

注5：作成者サイン B は申請会社以外に製造会社がある場合（OEM 品、輸入品など）に製造会社担当責任者が記入する。（但し、製造委託は除く）

注6：エアゾール塗料の場合は噴射剤を除く塗料液の内容量、密度、必要に応じて塗付量の算出根拠を様式 15 にて提出する。

注7：多液を混合する商品は、構成する材料毎（主剤、硬化剤など）に分けて本紙を提出する。但し、材料の中に種類が複数ある場合、その材料(夏用・冬用硬化剤や着色剤など)は、複数種あることを明記した上で同じ組成表にまとめて巾で記入する。

注8：多液を混合する商品は、構成する材料の混合比率と混合比率が変動する場合は、その有無を記載する。

A：作成者サイン^{注4}；塗料 華子

B：製造会社の

担当責任者サイン^{注5}

B は申請会社以外の製造会社がある場合に製造会社担当責任者が記入する。

サインは直筆で担当者が記入する。

様式 02-2

品質保証書—組成表（維持管理**非該当**の場合）

維持管理対象の例として他の記入例と登録塗料分類を変更しています

会社名：日本塗料株式会社

登録塗料分類：EM：合成樹脂エマルジョンペイント

商品名：二ホン壁タロウ（各色・各つや）

構成材料^{注7}：液・多液（

種類）

色相：単色・各色

各艶：有・無

用途：壁 床 天井 その他（

天井

その他（

（構成材料名^{注7}：

種類^{注7}：有・無）

成分名 ^{注7}	重量% ^{注1} (小数点以下1桁まで記入)	C A S N o .	備考 ^{注3}
樹脂（固形分）			
アクリル樹脂エマルジョン A	20.0～30.0	非開示	維持管理 非該当
アクリル樹脂エマルジョン B	5.0～15.0	非開示	原色用 維持管理 非該当
顔料			
ルチル型チタン白	0～20.0	13463-67-7	
有機顔料	0～5.0		
炭酸カルシウム	3.0	471-34-1	
溶剤			
添加剤 ^{注2}			
エチレングリコール	3.4～4.0	107-21-1	非ホルムアルデヒド系
2-メチル-4-イソプロピル-3-オン	0.5	2682-20-4	非ホルムアルデヒド系
アンモニア水	0.1	1336-21-6	非ホルムアルデヒド系
シリコン変性消泡剤	0.2		非ホルムアルデヒド系
その他			
水	XX.0～YY.0		
合計	100.0		
〔塗料特性〕 ^{注6、8} 密度：1.25～1.50 g / m l (23℃) 加熱残分：△△.△～□□.□% 引火点：300℃以上 混合比率 ^{注8} ：混合比率の変動 ^{注8} ：有・無			

注1：各色・各艶の場合は重量%を巾で記入する。単色等の場合は固定値で記入する。

注2：各色・各艶の添加剤種類はすべて記入する。

注3：樹脂はアルキド樹脂（アルキド樹脂を変性した樹脂を含む）、天然系樹脂の場合は維持管理該当、それ以外は維持管理非該当を備考欄に記入する。添加剤は非ホルムアルデヒド系であることを備考欄に記入する。

注4：作成者サイン A は申請会社作成者が記入する。（自社製造品又は製造委託品は B 記入不要）

注5：作成者サイン B は申請会社以外に製造会社がある場合（OEM 品、輸入品など）に製造会社担当責任者が記入する。（但し、製造委託は除く）

注6：エアゾール塗料の場合は噴射剤を除く塗料液の内容量、密度、必要に応じて塗付量の算出根拠を様式 15 にて提出する。

注7：多液を混合する商品は、構成する材料毎（主剤、硬化剤など）に分けて本紙を提出する。但し、材料の中に種類が複数ある場合、その材料（夏用・冬用硬化剤や着色剤など）は、複数種あることを明記した上で同じ組成表にまとめて巾で記入する。

注8：多液を混合する商品は、構成する材料の混合比率と混合比率が変動する場合は、その有無を記載する。

A：作成者サイン^{注4}；塗料 華子

B：製造会社の

担当責任者サイン^{注5}

名

)

B は申請会社以外の製造会社がある場合に製造会社担当責任者が記入する。

サインは直筆で担当者が記入する。

様式 02-2

2025 年 5 月 29 日

品質保証書—組成表

構成する材料の種類数を記入する＝
組成表の枚数

会社名：日本塗料株式会社

登録塗料分類：U：ウレタン樹脂系塗料

商品名：二ホン床じろう（白色）

構成材料^{注7}：1液・多液（2種類）色相：単色・各色 各艶：有・無

用途：壁、床 天井 その他（

（構成材料名^{注7}：二ホン床じろう 主剤 白 種類^{注7}：有・無）

成分名 ^{注7}	重量% ^{注1} (小数点以下1桁まで記入)	CAS No.	備考 ^{注3}
樹脂（固形分）			
アクリル樹脂	80.0	非開示	維持管理該当 or 非該当
材料毎に本紙を作成する。SDS と同一品名であること。			
顔料			
ルチル型チタン白	20.0	13463-67-7	
溶剤			
トルエン	10.0	108-88-3	
酢酸ブチル	15.0	123-86-4	
酢酸エチル	8.0	141-78-6	
メチルイソブチルケトン	10.0	108-10-1	
セロソルブアセテート	5.0	111-15-9	
添加剤 ^{注2}			
顔料分散材	0.5		非ホルムアルデヒド系
表面調整材	0.8		非ホルムアルデヒド系
粘度調整剤	0.7		非ホルムアルデヒド系
その他			
合計	100.0		
〔塗料特性〕 ^{注6、8}			
密度：1.20 g/m l (23℃) 加熱残分：50.0% 引火点：12.0℃			
混合比率 ^{注8} ：5：1 混合比率の変動 ^{注8} ：有・無			

注1：各色・各艶の場合は重量%を巾で記入する。単色等の場合は固定値で記入する。

注2：各色・各艶の添加剤種類はすべて記入する。

注3：樹脂はアルキド樹脂（アルキド樹脂を変性した樹脂を含む）、天然系樹脂の場合は維持管理該当、それ以外は維持管理非該当を備考欄に記入する。添加剤は非ホルムアルデヒド系であることを備考欄に記入する。

注4：作成者サイン A は申請会社作成者が記入する。（自社製造品又は製造委託品は B 記入不要）

注5：作成者サイン B は申請会社以外に製造会社がある場合（OEM 品、輸入品など）に製造会社担当責任者が記入する。（但し、製造委託は除く）

注6：エアゾール塗料の場合は噴射剤を除く塗料液の内容量、密度、必要に応じて塗付量の算出根拠を様式 15 にて提出する。

注7：多液を混合する商品は、構成する材料毎（主剤、硬化剤など）に分けて本紙を提出する。但し、材料の中に種類が複数ある場合、その材料（夏用・冬用硬化剤や着色剤など）は、複数種あることを明記した上で同じ組成表にまとめて巾で記入する。

注8：多液を混合する商品は、構成する材料の混合比率と混合比率が変動する場合は、その有無を記載する。

A：作成者サイン^{注4}；塗料 華子

B は申請会社以外の製造会社がある場合に製造会社担当責任者が記入する。

B：製造会社の

担当責任者サイン^{注5}

名

)

サインは直筆で担当者が記入する。

様式 02-2

2025 年 5 月 29 日

品質保証書—組成表

会社名：日本塗料株式会社

商品名：二ホン床じろう（白色）

登録塗料分類：U：ウレタン樹脂系塗料

構成材料^{注7}：1液・多液（2種類）色相：単色・各色 各艶：有・無

用途：壁、床、天井、その他（ ）

（構成材料名^{注7}：二ホン床じろう 硬化剤 種類^{注7}：有・無）

成分名 ^{注7}	重量% ^{注1}	N	備考 ^{注3}
樹脂（固形分）	材料毎に本紙を作成する。SDS と同一品名であること。		
ヘキサメチレンジイソシアネート三量体	45.0～48.0	3779-63-3	維持管理該当 or 非該当
ヘキサメチレンジイソシアネート	2.0～5.0	822-06-0	維持管理該当 or 非該当
顔料			
溶剤			
トルエン	10.0	108-88-3	
酢酸ブチル	20.0	123-86-4	
酢酸エチル	20.0	141-78-6	
添加剤 ^{注2}			
その他			
合計	100.0		
〔塗料特性〕 ^{注6、8}			
密度：1.20 g/m l (23℃) 加熱残分：50.0% 引火点：10.0℃			
混合比率 ^{注8} ：5：1 混合比率の変動 ^{注8} ：有・無			

注1：各色・各艶の場合は重量%を巾で記入する。単色等の場合は固定値で記入する。

注2：各色・各艶の添加剤種類はすべて記入する。

注3：樹脂はアルキド樹脂（アルキド樹脂を変性した樹脂を含む）、天然系樹脂の場合は維持管理該当、それ以外は維持管理非該当を備考欄に記入する。添加剤は非ホルムアルデヒド系であることを備考欄に記入する。

注4：作成者サイン A は申請会社作成者が記入する。（自社製造品又は製造委託品は B 記入不要）

注5：作成者サイン B は申請会社以外に製造会社がある場合（OEM 品、輸入品など）に製造会社担当責任者が記入する。（但し、製造委託は除く）

注6：エアゾール塗料の場合は噴射剤を除く塗料液の内容量、密度、必要に応じて塗付量の算出根拠を様式 15 にて提出する。

注7：多液を混合する商品は、構成する材料毎（主剤、硬化剤など）に分けて本紙を提出する。但し、材料の中に種類が複数ある場合、その材料（夏用・冬用硬化剤や着色剤など）は、複数種あることを明記した上で同じ組成表にまとめて巾で記入する。

注8：多液を混合する商品は、構成する材料の混合比率と混合比率が変動する場合は、その有無を記載する。

A：作成者サイン^{注4}；塗料 華子

B：製造会社の

担当責任者サイン^{注5}

B は申請会社以外の製造会社がある場合に製造会社担当責任者が記入する。

名

サインは直筆で担当者が記入する。